

展示のごあんない

4階展示



環境月間 パネル展



6月は「環境月間」と定められています。

このフロアでは、地球温暖化対策・自然共生に関する展示を行っています。

本年は豊島区の実践紹介に加え、**多様な主体との連携**を軸に
学生さんや区内の事業者さん等にもご協力いただき、
パネルを作成いたしました！

**「自分ごと」としてご覧いただき、
環境にやさしい行動を取り入れくだされば幸いです。**

展示期間：6月1日（月）～6月29日（月）

環境政策課

サンゴ礁の再生を願って…

サンシャイン水族館では、恩納村より養殖サンゴをお借りし恩納村産サンゴの常設展示を行っています。水槽で育て、殖やしたサンゴは恩納村の海へ返還、恩納村での定期的なメンテナンスを行い、自然海域での成長を見守っています。



サンゴを守るために、私たちができること

街の清掃活動に参加する
海ゴミの多くは陸から。街をきれいにして、生き物も守ろう！

環境に配慮した商品を選ぶ
私たちが普段使うものから、環境を守ろう！

調理をするときは食べきれる量を
ちょっとした工夫で水の汚れやゴミを抑制しよう！

マイボトル・エコバッグを利用
ゴミを減らすことは、温暖化抑制の第一歩！

サンゴやサンゴプロジェクトの詳細についてはこちらから

ぜひ、見てね！

日々の暮らしの中で、私たちのちょっとした心がけがサンゴを守ることに繋がります。

止まらないサンゴ礁の減少

サンゴ礁は今、様々な原因で減少しています。その原因の1つに、私たち人間の生活が大きく関わっています。人間が便利な暮らしをするための活動が、少なからず悪い影響を海に与えてしまっているのです。

気候変動の影響によるサンゴの白化

水温30℃以上が続くとサンゴは白化し、やがて死んでしまいます。

農地や家庭から流出する化学物質

化学物質の一部にはサンゴへの悪影響が懸念されています。

プラスチックが与える生物への悪影響

小さなプラスチックの破片を、生き物たちがエサと間違えて食べてしまうことも。

サンゴを食べてしまうオニヒトデの大量発生

オニヒトデの増加だけでなく、水質異常によるサンゴへの悪影響も報告されています。

開発工事などによる土砂の流出

土の細かい粒子がサンゴを覆い、そのまま死んでしまうことも。

サンシャイン水族館サンゴプロジェクト

サンシャイン水族館では沖縄県恩納村の協力のもと、2006年から「サンゴプロジェクト」に取り組んでいます。水族館でのサンゴの飼育・繁殖、サンゴ礁の生態系展示やイベントを通じてサンゴ礁の素晴らしさや大切さを伝え、守る活動を推進しています。



サンシャイン水族館
サンゴプロジェクト



水族館・恩納村でサンゴを育て殖やす！



水族館でサンゴ礁の世界を体感！



イベントでサンゴをもっと知ろう！

世界一サンゴと人にやさしい村、恩納村



沖縄県恩納村では、恩納村漁業協同組合によるサンゴ礁保全活動を皮切りに、2018年には村全体でサンゴ（自然環境）保全を実施していくために「サンゴの村宣言」～世界一サンゴと人にやさしい村～を出しました。翌年には自然環境に優しい村づくりが評価され、SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業に選定、持続発展可能な社会の構築に向け様々な活動に取り組んでいます。

「沖縄県恩納村」や「サンシャイン水族館」では、サンゴ礁の再生を願って様々な活動が推進されています。

日本の絶滅危惧種を知ろう！守ろう！ ～コウノトリ・ツシマヤマネコ保全の取り組みから～

大正大学地域創生学部公共政策学科
本田裕子・高橋正弘

■日本の絶滅危惧種の状況

- ・約9万種が生息しているとされる。
- ・環境省「レッドリスト2020」では、絶滅危惧種と評価した種は合計**3,716種**とされる（「海洋生物レッドリスト」に掲載された種数とあわせると合計**3,772種**）。

日本の絶滅危惧種の多くが里山に生息している。

戦後里山は、開発（オーバーユース）や管理放棄（アンダーユース）の影響を受けて、減少・悪化。



里山とは、森林・田畑・集落がセットとなった自然環境とされる。

◆野生生物の減少原因

- ①生息地の消失（破壊と分断）
- ②生息地の悪化と汚染
- ③乱獲や過剰利用
- ④外来種の移入
- ⑤病気の蔓延

* 外来種については隣のポスターへ *

人間の活動・社会のあり方が関わっている！

■日本の絶滅危惧種の代表例：里山で生息するコウノトリ・ツシマヤマネコ

コウノトリ(環境省レッドリスト：絶滅危惧 I B類)

- 1971年に野生下絶滅し、人工繁殖に成功後2005年に兵庫県豊岡市での野生復帰が開始。
- 現在では各地に生息が広がり、2026年2月28日時点で546羽が国内に生息。
- 関東地方でも2025年の繁殖までに累計50羽が巣立っている。

翼を広げるとおよそ2m



ツシマヤマネコ(環境省レッドリスト：絶滅危惧 I A類)

- 長崎県対馬市のみで生息する野生のネコ
- 生息数は100頭前後（推定）
- 減少原因は生息環境の減少・分断、交通事故、錯誤捕獲やノイヌによる咬傷、イエネコとの競合・感染症等が挙げられている。



イエネコとの違いのひとつとして、耳の後ろに「虎耳状斑」がある

■大正大学公共政策学科の環境分野合同ゼミによる千葉県野田市での活動

- 2015年から演習科目の中で活動
- 千葉県野田市では2012年からコウノトリを飼育、2015年から2023年まで17羽放鳥
- 飼育施設前にある減農薬でのお米づくりができる水田型市民農園で実践



飼育施設前の電柱で営巣中のコウノトリ (2024年の繁殖シーズン)



学生たちが市民農園で田植えをしている様子



学生たちが稲刈りをしている様子

飼育施設がある江川地区は2025年9月に環境省の「自然共生サイト」*に認定
*「民間等の取組によって生物多様性の保全が図られている区域」を認定する制度

■大正大学公共政策学科有志のツシマヤマネコの交通事故防止活動について

- 2017年から教員・学生有志で活動
- 交通事故防止を啓発するチラシ・ポケットティッシュの作成・配布、移動式看板等の作成
- 生息環境整備のお手伝い（カルバート清掃やシカ柵の設置作業等）



作成したポケットティッシュのデザイン (2025年)
* 韓国人観光客も多いことから啓発文章は韓国語も併記



読売新聞での掲載記事 (2025年9月11日)



シカ柵の設置作業の様子
* 対馬ではシカが増えていて、森林生態系に影響、ヤマネコの生息環境にも変化を与えている。



参加学生がデザインした移動式看板 (対馬島内で設置)

井の頭自然文化園で毎年10月に開催されている「ヤマネコ祭」にも出展し活動報告（今年も出展予定）

私たちの生活に身近な外来種について

大正大学公共政策学科 野生生物保護ゼミ学生有志

外来種

もともとその地域にはいなかった生物であり
人間の活動によってほかの地域から入ってきた生物

▶ 侵略的外来種

外来種のうち**日本の生態系、人の生命、身体、農林水産業等への被害**を及ぼす恐れがあるもの。

【特定外来生物】

「外来生物法」で飼育・栽培・保管・輸入・運搬等が厳しく規制されている生物のこと。

外来種の影響

▶ 生態系への悪影響

- 生態系は長い間、食う・食われるということを繰り返し微妙なバランスを保ち成立しています。外来種が入ってくことで**バランスが崩れてしまう可能性があります。**
- 生態系、人間、農林水産業まで幅広くに**わたり悪影響を及ぼす場合もあります。**

どのような特徴??

皆さん、「外来種」という言葉を聞いてどんな生物を想像しますか？
このトピックでは、馴染みのある外来種を紹介していきます。

この2種は「**条件付特定外来生物**」です。
野外への放出・販売禁止。
飼育や無償譲渡は可能。

【アメリカザリガニ】：藻類や水草類・魚類などあらゆる水生生物を**食い尽くしてしまう食欲旺盛な雑食性**です。その為、水生生物が減ってしまうだけでなく、池や川の環境が悪くなることにも繋がってしまうため、大きな問題となっています。

また、基本的に夏~秋にかけての長期の繁殖をします。身体の大きさによって異なりますが、およそ100~1000の卵を産むため、駆除が追いつかない現状にあります。

★特徴：全体的に赤黒く、はさみが細長くギザギザしているのが特徴です。



提供：環境省

【ミシシippアカミミガメ】：ミシシippアカミミガメ（以下アカミミガメ）は、**雑食性**であるため在来種の小魚や水生生物の**食害**や農業・水産業等への被害が深刻な問題となっています。

川に行くときよく日光浴をしているカメ。実は、そのカメの多くは**アカミミガメ**であることが多いです。

★特徴：耳が赤く、二ホンイシガメより**大型**です。



提供：環境省

身近な植物の外来種

【セイヨウタンポポ】

外来タンポポ種群は日本の**侵略的外種ワースト100**に選ばれています。

よく見かけるのは**セイヨウタンポポ**です。在来種との見分け方は花の付け根にある**総苞片の形**で見分けることができます。在来種の**交雑種**が問題視されています！



【ハルジオン】

北アメリカ原産の多年草で全国に広く分布し、外来種の**ヒメジョオン**とも似ています。

日本ではハルジオンとヒメジョオンの二種を「貧乏草」と呼ぶことがあります。強い繁殖力を持ち日本の**侵略的外来種ワースト100**に選ばれています。



【ナガミヒナゲシ】

全国に広く分布しており、**強い繁殖力**を持っています。「**特定外来生物**」には指定されていません。

毒性があり、素手で触ると皮膚に炎症が起きる可能性があるため、むやみに触れないように注意しましょう。



在来種を守る為にできること

在来種を守る為に私たちが一番意識すべきことは、「**外来種被害予防三原則**」です。

入れない

外来種を自然分布域から分布域へ「入れない」

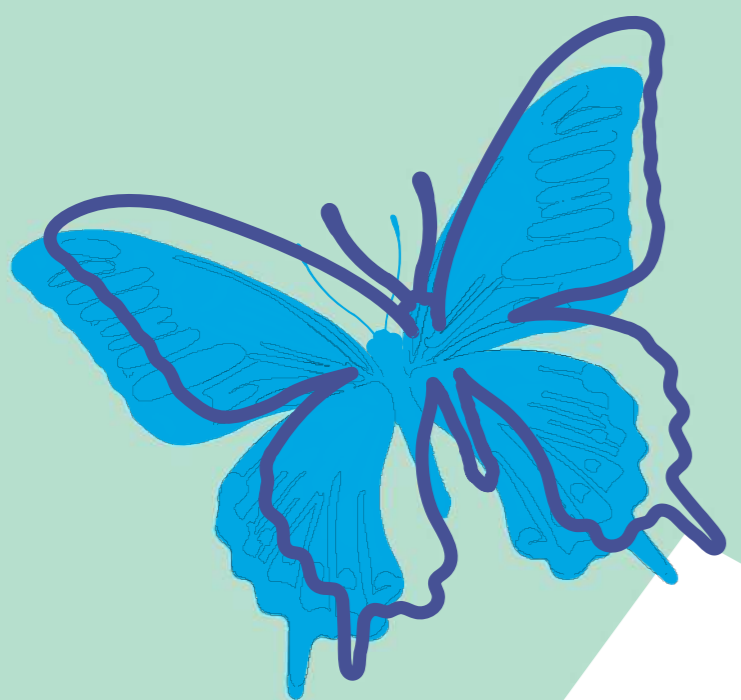
捨てない

飼育・栽培している外来種を適正に管理し、「捨てない」

拡げない

既に野外に野外にいる外来種を他地域に、「拡げない」

この3つの原則を守ることが、**在来種を守り、生態系の維持に繋がります。**

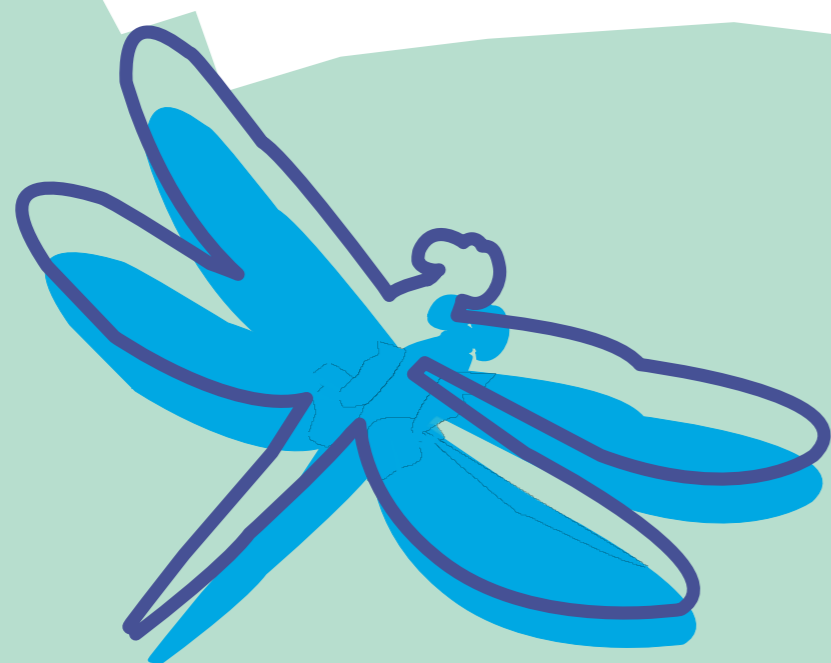


区民参加型生きもの調査

生きもの発見

レポート
大募集!

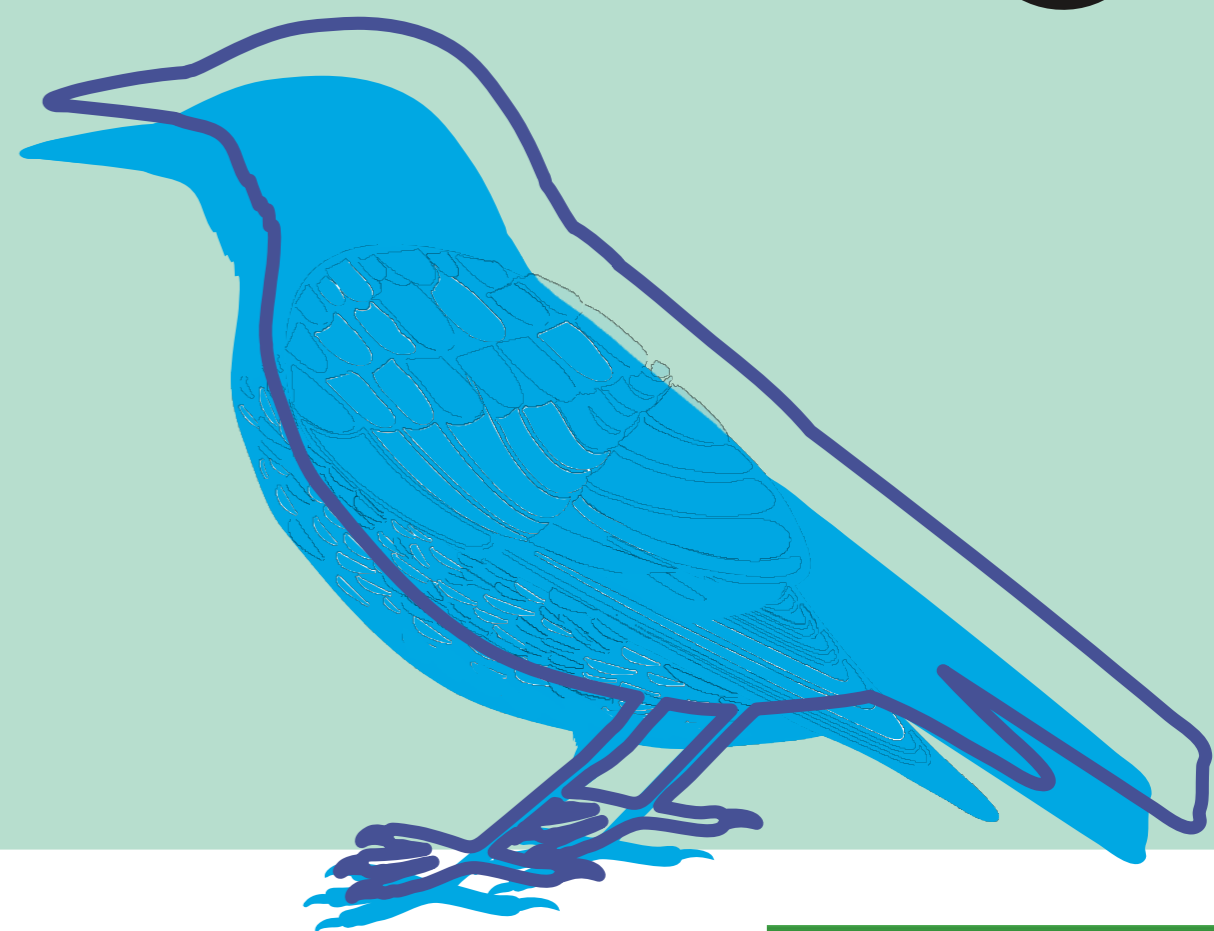
としま 生きものさがし 2026



今年も10月まで
開催します!

ちょうさ期間
調査期間

6/1(月)～10/31(土)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

目指すターゲットは15!

陸の豊かさも守ろう

15 陸の豊かさも守ろう



区民のみなさん自身が生きもの調査員になって、
区内の生態調査を行います。
毎年さがすことで、生きものがどこにどのくらい
いるかの変化を知ることができ、生物の多様性を
保つための重要なデータになります。



調査ガイドは豊島区役所6F
環境政策課で配布しています。

「としま生きもの
さがし」ページへ!



みらい館大明「いのちの森」 自然観察会について紹介します！

見る



年2回(初夏・秋)に
実施中！

毎回異なるテーマで実施

みらい館大明の「いのちの森」
を見学します。夏と秋で雰囲気
が異なります。

学ぶ



作る



令和7年 初夏
大豆の特徴や調子、枝豆づくり体験

↑ → ○月○日
取り組み例

令和7年 秋
イチゴの種類や育て方、イチゴ作り体験



令和8年 初夏
リードディフューザー作り

企業、NPO、学校とつながり 環境教育・啓発を行っています。



出前授業



豊島の森
環境講座



いのちの森
環境学習講座



ヤゴ救出
作戦



ソーラーハウス
ランタン工作教室



緑のカーテン



ファーマーズ
マーケット



グリーンとしま再生
プロジェクト



エコライフフェア



環境月間



他に色々
あります



環境政策課事業グループ

